

東京都立青山高等学校

サッカー部 OB会

OB総会資料 兼 会報 No. 001

2003年6月7日

於： 渋谷東武ホテル

目次

1. はじめに:
 2. 御挨拶:
 3. 青高サッカー部の歴史:
 4. 目的及び活動内容(案):
 5. 規約(案):
 6. 役員(案):
 7. 予算(案):
 8. その他
 9. あとがき
- 補足資料: 会員名簿:

1. はじめに

- 発足経緯のご報告 -

日本開催ワールドカップの余韻もさめやらない2002年8月、住友商事の多摩川グラウンドを借用、そこへ青山高校サッカー部のOB有志が集まり、一緒にボールを蹴る機会がありました。

昼間は約70名、夜も約50名と44才から19才のメンバーが集まり、とても楽しい時間を過ごしました。

これまでも近い年代毎では高校卒業後にも繋がっていた仲間はありましたが、これを契機に年代を超えた青山高校サッカー部OB会としてより大きな繋がりを持たせたい、という御要望をたくさんの方から頂きました。

「まだ見たこともない自分の子供のような後輩達や、お世話になった顧問の先生方、そして青山高校サッカー部への恩返しをしたい！」という皆様の気持ちを受け、その後有志で打合せを進めてまいりました。

現顧問の城石先生・小笠原先生にもご相談し、あるいは他部OB会、そして同窓会役員の方々にもアドバイスを頂きながら、やっとここまで辿りつくことが出来ました。

本日ここに「東京都立青山高校サッカー部OB会」の発足と致します。

1981年(昭和56年)卒 寺尾直哉

2. 御挨拶:

- 青高サッカー部顧問の頃 -

私は 1967 年から 1987 年まで 20 年間、青山高校にお世話になりました。その間、学園紛争やラグビー部の合宿中の死亡事故、またグラウンドの改修や体育館の新設など、いろいろな事がありました。

サッカー部の思い出としては、まず 1967 年に学校群 1 期生として入学してきて紛争にかかわった者達が多く入部してきました。彼等が紛争もなく、正常な授業を受ける高校生活を送っていたならば、苦勞をせずにより立派な人間に成長して社会のために大いに貢献したであろうに、と今でも氣になっています。次は、当時は慶応高校や青山学院高校など私立の高校入学を取りやめて、青山高校に入ってきた者もかなりいました。そういう状況の中で、部活動と勉学の両立が成立つかどうかに悩みながら、ある者は勉強時間を夜型から朝型に変えて、苦しい練習に耐えてきた者もいました。

青高サッカーチームとしては、都内でベスト8になったことも時々ありました。その中には体力・気力・技術からみても、現在のプロチームに入っても結構やっていけると思う者も数は少ないがいました。その反面、高校 3 年間一度もレギュラーになれなかったけれども、練習は一日も休まず、黙々と努力している姿をみて頭の下がる思いがした者もいました。

また 1 年間を通じて 60 回以上も学校に遅刻してくる者もいましたが、彼は朝練には 1 回も遅刻をすることがなかった。

歴代のマネージャー達も特に合宿時の洗濯物の山を毎日処理し、怪我人が出た時も親身になって、皆よく面倒をみて働いてくれました。

などなど多くにことを思い出しますが、最近のサッカー部の連中はどうだろうか？

話は変わりますが、近頃私は若い者に「身体に気をつけて」とよく言います

が、健康の有難味は歳をとって身体に「ガタ」がくるか、病気になって苦しんでみて初めてわかるものであろう。

女 33 才、男 42 才は昔から厄年だと言われていますが、それには訳があって、この年代は身体に大きな変化のある頃であるが、しかし気分はいつも 20 才代なので、つい無理をして怪我をしたり、身体をこわすことがよくある。病気は急に現れるものではなく、若い時からの積み重ねであろう。このデフレ不景気で大変な時代に健康に留意しながら、それぞれの道を、それぞれが、しっかり生きていって下さい。

なにを書いているのか、よくわからなくなってきたので、この辺で。

青山高校サッカー部 元顧問 谷口 憲一

青高サッカー部OB会の発足に寄せて

青山高校サッカー部OB会発足おめでとうございます。

青山高校は、1940 年(昭和 15 年)に府立第十五中学校として開校し、創立 63 年目を迎えました。

その歴史の中で、サッカー部は 1963 年同好会から正式に部に昇格して 40 年の歴史があります。

校舎改築をはさみグラウンドが使えない時期もありましたが施設の不十分な点はサッカーへの情熱と工夫で補ってきたと思います。その中で青高サッカー部の歴史と伝統が培われていくと同時に、自分たちの学校を大事にしようという心が一人ひとりの中に育ち、今回のOB会発足につながったのではないのでしょうか。

学窓を離れ、各人がそれぞれに異なった道を歩み始めるとどうしても疎遠になってきます。それが時の流れというものですが、それでいながら、あいつは今頃どうしているだろうか、相変わらずだろうか、などとおもいだされるのが学友というものです。サッカーを通じ汗と涙を流したものが相集まることは、限りない多くの支えを生み、お互いの連帯感を生み出すことでしょ。この会では、往事を振り返り、懐旧談に花を咲かせるとともに交流を深め、年代を超えたつながりを蜜にするように心掛けてください。そして青高サッカー部の発展を見守ってください。

青山高校サッカー部 顧問 小笠原誠志

青高サッカー部OB会の発足に寄せて

青高サッカー部OB会の発足を心からお慶び申し上げます。

Jリーグがスタートして 10 年、サッカーは今やナショナルスポーツとして定着しつつありますが、このような背景のもの、青高サッカー部OB会の結成は、関係者にとって待望久しかったと同時に、これほど心強いことはないものと存じます。

さて、同窓会には年数回各学年の代表幹事が集まって常任幹事会を開催しております。本年 3 月の同会を前に、幹事役の寺尾直哉君が来られ、青高サッカー部OB会の立上げについて同窓会の支援を得たい旨の申し出がありましたので、会議への出席を承諾致しました。当日は短い時間ではありましたが、彼は青高サッカー部の経過を述べ、次第に熱くOB会への思いと後輩への強い期待からと、会結成の由来を披露しました。そして同窓会の理解と協力を願いたいと結びました。堅苦しい会場へ単身乗り込んで、一席ぶつことは大変なことですが、彼の真摯な姿に感銘すら覚えたものです。

平成 15 年度の同窓会の活動方針では、新にOB会や各支部との連携強化を掲げ、その結束を一段と堅固にしていくこととしており、貴OB会の結成は、同窓会の活動方針の先鞭をつけてくれたものと考えております。

青高サッカー部は、創部 40 年を迎えましたが、先輩並びに現役諸兄の弛めぬ努力により、長い伝統を堅持され今日に至っていることに敬意を表する次第です。今後はこのOB会の発足で強力なサポート体制が構築され、青高サッカー部が有力高の一翼に加わることも決して夢ではないと信じております。

OB会結成に寄せられました顧問の先生並びに諸兄のご尽力に心から敬意を表し、会の限りないご発展をお祈りし挨拶といたします。OB会結成おめでとう！

青山高校同窓会長 廣田浩雄

サッカー同好会からサッカー部へ昇格の頃

中学時代にサッカー部の助っ人としてボールを蹴り始め、高校に入ったら本格的にサッカーをやるつもりだったのに、肝心のサッカー部が青高にはありませんでした。これはショックでした。背はあまり高くないのでバスケットは無理だし、ラグビーは本格的にはちょっとパス、野球は公式は痛いし、軟式はピッチャー以外はつまらないしと毎日悩んでいると、ある日グラウンドの隅でボールを蹴っている数人を見かけました。声をかけてみると2年生の柿崎さん・川澄さんでした。ただ同好会なので、部費予算・部室・グラウンド割当もなく、当然ながら顧問の先生もいませんでした。

それから1年間は部昇格への長い道のりが続きました。同好会と部の格差は皆さんが考えている以上のものです。着替えひとつにしても教室でなくてはいけません。対外試合をしようとしても、どこも同好会では相手にしてくれません。一番屈辱的なのは学校側と仲間の見る目です。なにかにつけて、同好会 = 非公認団体 という扱いしかしてくれません。部に昇格するには生徒会で賛成多数(何%だったかは失念しました)を獲得しなければいけません。それにはまず部員を集めて活動することでした。ポスターを作り、中学でサッカーをしていたという噂を聞けばその教室にいき口説き落とし、ようやく組めた対外試合には、人数が足りないのと同じクラスの仲間を無理矢理ひっぱりこみ、運動靴で試合に出してもらいました。

顧問の先生はラグビー部の顧問をされていた音楽の「かば先生」こと鈴木先生にお願いし、部室もようやく間借りできるようになりました。1年後の生徒会は議長の船久保君を抱き込み(彼も一時同好会に在籍、名ゴールキーパー)、挙手賛成多数で部昇格を決めました。

その後は、東京オリンピックでの日本代表の活躍もあり、部員も多数入部、第1回の夏合宿は、柔道部の顧問と兼務していた風間先生のおつてで、柔道部と合同で群馬の渋川で実施しました。

卒業後は2年間コーチをつとめ、1968年には一級審判ライセンスをお持ちの長坂先生にバトンタッチしました。私のコーチ時代の教え子、加川厚氏(1969年卒)も4年間手伝いをしてくれたと最近本人から聞きました。1980年卒の荒井泰造氏とは波崎のサッカー大会の宿舎で知り合い、大学のクラブ(早稲田の稲穂キッカーズ)と一緒にするのは分かっていたのですが、青高と知ったのはかなり後でした。

このように青高サッカー部の方々との出会いはわずかなものですが、今回の企画を聞くにつけ多数の人達が綿々と歴史をつなぎ今回の催しが実施されることは、まさに驚愕の心境です。

私の記憶が正しければ、1963年の創設になり奇しくも今年が2003年、創部40年の節目の年になります。この記念の年に幹事さんの発起により、始めて年代を超えてOB会が開かれるということは何か因縁めいたものと、また無常の喜びを感じる次第です。

私は現在神戸に住み、月2回オーバー50のチームでサッカーを続けています。先日西日本の大会が鈴鹿で開かれ、60代=赤パンツ、70代=銀パンツ、80代=紫パンツの方々が多数参加され、元気にボールを蹴っている姿を真近で見ると、まだまだ負けていけないと自分に喝をいれ直しました。皆さんも何かの縁でサッカーとめぐり合った訳ですから生涯現役で頑張ってください。皆さんのこれからの御健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

1965年(昭和40年)卒 姫野修佐

たかがサッカー、されどサッカー

- ビバ・ワールドカップ! -

1977年(昭和52年)卒業の大場です。1年下にもう1人大場君がいるので大場Aと呼ばれています。昨年夏にOB会をやるとの連絡を受けて、飲み会のみ参加したところたまたま私が最年長だったため「何もしなくていいから」と言われ、諸先輩方を差し置いて会長になってしまいました。その会長が総会を欠席するなんて、民間企業では株主である皆さんから罷免される場所ですが、かなり前から昨日、今日と出張が入っておりまして、本当に申し訳ありません。谷口先生も来られるというのに本当に残念です。ともかくこのような第一回青山高校サッカー部OB会が盛大に行われるのは素晴らしい、ひとえに寺尾君をはじめとする事務局の皆さんの努力の賜物です。

というわけで会長のあいさつと言っても偉そうなことは言えないので、自身のサッカーとの係りについてお話しします。私はキャプテンをやらせて貰いましたが、一応自分なりに練習メニューを考え、20~30名の部員を引っ張って来たわけで、今から思うと良くやれたなとようやく謙虚に思う次第です。私は小学校の途中からサッカーをやっていたせいか(中学校は先輩の勧めもあって野球部もしばらく兼務してたのですが)、何時の間にかサッカーのみになり、高校もすんなりサッカー部を選んだ訳です。中学生時代は毎週日曜の「三菱ダイヤモンドサッカー」を見て、学校のグラウンドに行き、同じ思いを持って自然に集まってきた皆と何時の間にか試合をやっているような時代でした。当時「三菱ダイヤモンドサッカー」はイングランドリーグがメインで、途中からブンデスリーガに変わり、走って蹴ってロビングを繰り返すイングランドサッカーから、グラウンダー、ワンツーパスを多用する(当時では華麗な)ドイツサッカーに魅了され、それからドイツのファンになりました。その頂点が1974年の西ドイツワールドカップであり、ヨハン・クライフを中心とするトータルフットボールのオランダと西ドイツの決勝戦の衛星生中継があり、ビデオの無かった当時(確か中間試験の前日?)は夢中になって見たものです。

ただ選手としてはクライフに圧倒され、高校時代にはキャプテンの特権で背番号14番を奪い、スパイクは無理してプーマを履いていました(あれはつま先が細くて痛い...)。オランダの登場からサッカーのスタイルが分業からローテーションサッカーへ変わっていきました。その流れは30年経った今でも一層強化され、キーパー以外に固定したポジション名が殆ど無くなりました。そういう意味では、体力的、技術的には相当高度になっていると思います。本当に当時で良かったと思う位です。それを思うと、今の青高現役選手はどういうサッカーをするのでしょうか。

それから30年経とうとしている現在、リーグ発足、フランスワールドカップ初出場、昨年の日韓共催ワールドカップなど当時からは信じられないことばかりです。特にワールドカップは世界がグローバル化(アメリカナイゼーションと言ってもいいと思いますが)化する世界で、数少ないローカル性を持つコミュニケーション手段です。確かにクラブチーム単位ではビジネスと同様完全なグローバル化です。レアルマドリードとブラジル代表の試合なんて考えられません。ただ4年に一度のワールドカップでは国(アイデンティティ)を意識せざるを得ません。昨年の日韓共催がまさにそうでした。欧州、南米、アジア、アフリカが超大国アメリカに対抗出来るのがサッカーです。別に私はアメリカが嫌いな訳ではありませんが、軍事、経済、金融、ITともはや唯一の超大国を自認するアメリカに勝つようなものがあるのもいいでしょう。アメリカは何故サッカーは強くなれないのか? そんな目でサッカーを見るのも面白いと思ってます。たかがサッカー、されどサッカーなのです。

1997年(昭和52年)卒 大場一鋭

6 年間コーチとしてつきあって

私は卒業した 1997 年の 4 月から就職する 2003 年の 3 月までの 6 年間、その関わり方は不規則でムラがあったとはいえ、OB として時間を見つけては一緒に練習し、また気づいたところは教えるという形で関わってきました。特に、最後の約 1 年間は選手たちからの依頼を受け、学校としては非公式な立場ではありましたが、部内としては正式なコーチとして練習をみてきました。そしてこの間、微力ながら現役の選手たちと力を合わせてやってきて、私を感じ、そして考えてきたことをここに書きたいと思います。

時間とともに青高サッカー部も選手たちも変わっていると感じます。それはとても自然なことではありますが、決して見逃してはならないのです。あるべきサッカー部の姿なんていうものはない、とも思いますが、忘れてはならないものもまたある、のだと思います。愛すべきサッカー部に失われかけているものを取り戻したい。その情熱で私は今までやってきました。

青高サッカー部を卒業した方々は、「青高サッカー部の良さ」をどうお考えでしょうか？「不器用でも効率が悪くても、自分たちみんなの力で、悩みながら、ぶつかり合いながらも何とかうまくやっていくこと」。私はそう考えています。

それは、とても難しいことですし、うまくいかないことも多いでしょう。結果として、失敗に終わることもしばしばあるのではないかと思います。でも、それは選手にとって実に意味があると信じています。誤解を恐れずに言えば、青高の選手にとって大切なのは「結果」ではなく、「成果」ではないかと思いません。私たちは自分たちの中に確かに成っている、サッカー部時代に手に入れた「果実」の存在を感じられるのではないのでしょうか。それは必死に、ひたむきに、全力を注ぎ込んで初めて熟れる「果実」なんだと思います。

またそれは、ずっと腐ることのないものなのです。

しかし問題は、選手たちの自分たちでうまくやっていく力が、徐々に弱まっていることにあります。果実はやせ細り、そして実りが乏しくなっているのです。それはなぜか、その原因を私は明らかにできていません。ただ確かなことは、私が卒業してから何年もの間、選手間のコミュニケーションがうまくいかず、チームが分裂してきたということです。自分たちでうまくやっていくことが出来づらくなっているのです。興味深いことに、それと共振するように実力も落ちてきました。

私たちは、現役の選手がうまくやっていく力があることを信じて、見守るしかしようがありません。しかし、選手たちには何がしかの助けが必要になっているのです。いったい私たちは、どう見守っていけばいいのでしょうか。私たちがそれぞれ感じている「青高の良さ」を失うことなく、これからも受け継いでいってもらうためにはどうすればよいのでしょうか。

選手たちと顧問の先生方だけではどうもうまくいかなかった今、青高OBの支えが彼ら選手たちにとっても大きな力を与えるはず！と考えています。彼らを甘やかすことなく、見守り、支える方法がきっとあるはずだと思います。私はコーチという手立てで彼ら選手たちを支えてきたつもりです。私たちOBが選手たちとより関わりを強くし、うまく見守っていく必要が出てきたという気がしています。

1997 年 (平成 9 年) 卒 塚元壱博

3. 青高サッカー部の歴史:

19XX年 : サッカー同好会として発足

1963年 : 生徒会の承認を経てサッカー部に昇格。

1963年冬 : サッカー部設立後の歴史的初戦

(対戦相手 = 郁文館高校、結果 = 敗戦、場所 = 小石川高校)

<過去の最高成績(自己申告)>

1970年(S.45)卒: 都ベスト8相当(?)

先に葉書でも連絡しましたが、6月7日は一年前からやっているシニアサッカーチームの合宿があり参加できません。今回の案内を頂き、名誉会長の姫野さん、顧問の長坂先生には在学中大変お世話になったので、お会いしたかったのですが、残念です。言い訳としては、サッカーの為に出席できなかったと言うことをご容赦下さい。在学中の一番の思い出は、2年次の新人戦で優勝したこと。これは東京都を八つに分けた地区大会ですから、実質的に東京都でBESTエイトということで、青高サッカー部の歴史上の快挙だと自負しています。今後の青高サッカー部発展の為に万難を排してバックアップしたいと思っていますので、OBに対して何なりと要請下さい。7日は、参加される皆様にぜひ宜しくお伝え下さい。(1970年卒 安田則之さんからのメール)

1979年(S.54)卒: 都大会ベスト8

1980年(S.55)卒: 都大会ベスト8

* その他の学年では都大会ベスト16 が何回かあるみたい。

4. 目的及び活動内容(案):

<目的>

皆さんが青春時代にお世話になった青山高校サッカー部への恩返し(現役サッカー部員及び顧問への支援)を第一の目的とします。また、OB会員相互の親睦・交流を第二の目的とします。

<活動内容>

以下を主な活動内容とします。

- A. 現役サッカー部への施設・物品の寄付
- B. 現役サッカー部が、練習や試合等に外部グラウンドを使用する場合のグラウンド代金の補助
- C. 顧問の先生方への支援・御礼
 - * A. B. C. については、直接現役サッカー部員と交渉や問合せするのではなく、必ず顧問の先生及びヘッドコーチへ事前に相談することとし、かつ物品や補助金は必ず顧問の先生へ手渡すこととします。
- D. 現役サッカー部の夏合宿等へのコーチ派遣及び費用補助
 - * D. については当該年度のヘッドコーチへ夏合宿前までに一括して支給することとします。原則としてその用途の詳細報告は不要としますが、コーチとして参加した合宿の状況や大会成績などを年末にレポートして下さい。(簡単な内容で構いません。感想文レベルでOKです。レポートに対して成績などはつけません。)

- E. 年代を超えた会員同士の交流
(進学・就職や家庭のモメ事などのヨロズ相談を含む)
- * E. については大人のお付き合いとして会員各位にお任せします。
先輩後輩などという垣根を無視して自由にどんどん連絡を取り合
って下さい。どんな内容でも後輩から連絡があった場合には、先
輩は上下関係などと古臭い堅苦しいことは言わずに積極的にサ
ポートして下さい。
またこのご時世なので先輩が苦しむようなことがあった場合には、
元気のいい後輩は積極的に相談にのってあげて下さい。
- F. 毎年6月第1土曜日にOB総会開催
G. 毎年12月第1土曜日に忘年会開催
H. 年に数回は一緒にサッカー(紅白戦・対外親善試合・大会参加・
合宿)

その他にも、「これは！」と思う提案があれば是非お知らせ下さい。

< 将来的に >

顧問の先生からも「青高の先輩として、サッカー部のOBとして、人
生の先輩として」現役サッカー部員に対して、どんどん積極的にア
プローチして指導をして頂きたいとのコメントを頂いています。

将来的には、子供や孫のような年齢の現役サッカー部員と一緒に
に高校のグラウンドでボールを蹴り、楽しく歓談することも計画して
います。

< お願い >

現役サッカー部員は高校生で(恐らくほとんどが)未成年です。
また母校は公立の高等学校です。私達は卒業生・先輩だとは
いえ、成人している大人なので、以下の注意事項は必ず守
り、現役高校生の模範となる節度ある行動をお願いします。

1. 青高の敷地内での喫煙・飲酒はもちろん厳禁!
2. 青校敷地内での飲食は原則禁止!(最低限の節度を守って)
3. 酒酔い状態で青高敷地内へ入ることももちろん厳禁!
4. 現役生に先輩風を吹かせることなく、大人としてのルールを守って!
5. 青高敷地外でも基本は上記1~4. に則って大人としての行動を!
6. 現役高校生へのメリットになることを最優先に考えて行動すること!

何卒よろしく!!!

5. 都立青山高校サッカー部OB会 規約(案):

第1章 総則

第1条 (名称) 本会は、青山高校サッカー部OB会と称する。

第2条 (事務所) 本会は、本拠を東京都渋谷区神宮前 2-1-8 東京都立青山高等学校内に置く。

第3条 (目的) 本会は、会員相互の親睦を深め、また現役生への技術指導ならびにその他の援助等を行う事を目的とする。

第4条 (事業) 本会は、第3条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- 1 会報の作成・発行。但し、ホームページへの掲載を持って会報の作成・発行に代えることもある。
- 2 会員名簿の作成・発行。
- 3 現役生に対する技術指導およびその他の援助。
- 4 会員同士の交流を図るための親睦会等の開催。
- 5 その他本会の目的を達成するために必要と認められた事業。

第2章 会員

第5条 (会員資格) 青山高等学校サッカー部に在籍した者。

第6条 (入会) 青山高校卒業あるいは転校後卒業と同時に入会の権利を持つ。また、退学したものについては卒業の年次に達した時に権利を持つ。

第7条 (会員の権利)

- 1 すべての会員は議決権および承認権を持つ。
- 2 すべての会員は総会への参加ができる。
- 3 すべての会員は会報の配布をうける。
- 4 すべての会員は役員となりうる。

第8条 (権利の停止およびその復権)

- 1 会員で会費の未納が2ヵ年に及ぶものは、前条に定めた会員の権利を停止する。
- 2 権利を停止されたものが復権を希望する場合、その旨を事務局員に連絡し、滞納した会費を納入しなければならない。

第9条 (除名) 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあるとき、そのものは除名をうけることがある。

第10条 (退会) 会員で退会しようとするものは、退会届を提出しなければならない。

第11条 (納入金の返還) 会員が除名、退会その他の事由によって会員の資格を失ったときは、すでに納めた会費の返還を求めることはできない。

第12条 (名誉会員) 本会の目的達成に多大の貢献を残した者は総会による議決を経て名誉会員の称号をおくることができる。

第3章 役員

第 13 条 (役員) 本会は会の運営を円滑に進めるために次の役員を置く。

- 1 会長 1 名
- 2 副会長 2 名
- 3 事務局長 1 名
- 4 事務局員 若干名
- 5 会計 2 名
- 6 会計監査 2 名
- 7 その他 若干名(会長が必要と判断した際に任命)

第 14 条 (役員の資格・選任・役務・任期)

- 1 役員は、本会会員から選出される。
- 2 会長・副会長・事務局長・会計監査は、総会で推挙される。
- 3 会長は本会を代表する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故のある場合はこれを代行する。
- 5 事務局員は事務局を組織し、本会の会務を執行する。
- 6 事務局長は役員が互選する。
- 7 会計は、事務局員で選出する。
- 8 会計は、本会の会計業務を行う。
- 9 事務局員は、卒業年次毎の代表者に本会に関する必要・決定事項の申し送りを行う。
- 10 役員任期は2年とする。ただし、重任・再任を妨げない。

第4章 総会

第 15 条 (時期) 総会は毎年1回行う。

第16条 (総会の成立) 総会は、欠席会員の委任状を含めて100人以上の会員の出席がなければ成立しない。

第 17 条 (総会の議決事項) 総会では、事業計画、予算・決算の承認、役員を選任などを行う。

第 18 条 (臨時総会) 会長が必要と認めるとき、もしくは100以上の会員の要求があった場合は、臨時総会を開催する。

第5章 議決および承認

第 19 条 (議決および承認)

- 1 議決および承認は、総会および会報上で行う。ただし、総会で議決する場合、予め議事に関する通知を行う。
- 2 全会員は各1票の議決権(承認権)を持つ。

第 20 条 (議決事項) 次の事項について議決・承認を求める。

- 1 会則の変更等、会則に関する事項。
- 2 活動報告。会計報告に関する事項。
- 3 その他、役員が必要と認めた事項。

第 21 条 (議決の可否)

- 1 総会で可否を決する場合、出席者の過半数によって決せられる。
- 2 会報上で可否を決する場合、1/4 以上の投票によって成立し、そのうちの過半数によって決せられる。

第6章 会計

第22条 (収入) 本会の収入は会員による会費および寄付金その他によるものとする。

第23条 (会費) 会員の会費は次のとおりとする。

- 1 年額1000円を一口とし、最低一口以上とする。
- 2 運営委員会で認められた者に限り、会費が免除される。

第23条 (会計報告) 会計役員は毎年、収支決算を行い、総会あるいは会報上において報告しなければならない。ただし、本会の会計は毎年総会の前に監査を受けるものとする。

第24条 (会計年度) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 補則

第26条 (規則の設定) この会則施行に必要な事項は、別に定める。

6. 役員(運営委員案):

最高顧問	: 柿崎 巍	- 1964年卒
名誉会長	: 姫野 修佐	- 1965年卒
会長	: 大場 一鋭	- 1977年卒
副会長	: 長沼 俊夫	- 1979年卒
副会長	: 豊原 仁志	- 1981年卒
事務局長	: 小深田 徹	- 1991年卒(兼 宴会部長)
事務局員	: 中里 豪介	- 1979年卒(会計監査)
事務局員	: 下村 一	- 1980年卒(会計監査)
事務局員	: 畑田 実	1981年卒(海外支局員)
事務局員	: 寺尾 直哉	- 1981年卒(総務担当)
事務局員	: 豊田 正弘	- 1984年卒(会計担当)
事務局員	: 畑野 順史	- 1987年卒(総務担当)
事務局員	: 野口 剛史	- 1987年卒(総務担当)
事務局員	: 林 努	- 1991年卒(会計担当)
事務局員	: 菊池 徹哉	- 1996年卒(総務担当)
事務局員	: 鈴木 尚史	- 1996年卒(ホームページ担当)
事務局員	: 会津 健	- 1974年卒(アドバイザー)

7. 予算(案):

青山高校サッカー部OB会は、非営利組織です。お世話になった青山高校サッカー部への恩返しの気持ちで運営します。その理念に従い、総会や忘年会、そして会員が参加してのサッカーを行う際のグラウンド代などは、参加メンバーからその都度参加費を徴収して賄うこととします。

但し、現役生への支援やコーチへの合宿参加費等の補助にはどうしてもお金が必要です。そして、会員の皆様への連絡手段としての通信費など最小限の経費もOB会の運営継続の為に発生します。非営利組織とはいえ、収入を超えて支出を行い赤字となることは本意ではありません。また赤字を避ける為に、収入の拠出元が特定の個人に集中することは避けなければなりません。

会費納入は、督促される側だけではなく督促する側にとっても、お互いに気まずいものです。気持ちよくOB会を運営して頂く為に、会員の皆様には自主的に会費を納入頂けるようお願いいたします。

発足初年度ということもあり総収入の予想もつきにくいのですが、暫定として以下の通り収入と支出の予算を組み、1年間の状況を見極めたうえで、必要に応じて次年度から見直しをかける予定です。

2003年5月24日
会計理事/様

OB会会計について

【方針】

- 年次予算・決算について6月の総会時に報告、承認が得られれば、会費およびHP上に掲載する。

■ 主な内訳(案)

<収入>	OB会費 (OB総会会費)	COFF
<支出>	現役生応援委員様 グラウンド代補助 コーチ合宿費等補助 その他顧問の方々への補助 練習費(ボール等) 事務経費 総会資料作成費 名簿作成費 通信費 HP運営費 OB会印刷経費 その他経費(消滅記録・振込手数料等)	COFF COFF

※収入の部：若干額は不明
※支出の部：活動計画に基づき検討

【運営方法】

- 幹事が立て替えた分については、必ず領収書を会計幹事まで提出。
(宛名は「青山サッカー部OB会」→領収書のないものは原則支払いません)
- 領収書由縁は、会計幹事より支払。(原則現金)
- 領収書はすべて会計ノートにて管理し、年次末に総経理と領収書の突き合わせを行い、監査を受ける。
- OB総会(顧問代・パーティー費用)、親睦会、飲み会等は、原則別会計とする。

以上

< 2003年度 収支予算 >

収入の部

会費収入: ¥ 600,000- (@ ¥ 1,000- x 600 人)

支出の部

現役生へのグラウンド代補助: ¥ 100,000- (@ ¥ 50,000- x 2 回)

コーチへの夏合宿費等の補助: ¥ 300,000-

総会資料名簿印刷費: ¥ 100,000-

通信費等事務局諸経費: ¥ 100,000-

* 初年度の為、収入見込みが読みにくいこともあり暫定です。

* 前述の通り、総会・親睦会にかかる各種費用は、出席者で負担することとしますが、一部は事務局経費として支出することもあります。次年度の総会もしくは会報にて収支報告をすることとし、次年度以降の総会時に収入・支出とも予算化することを検討します。

東京都立青山高校サッカー部OB会として、皆様からの会費や寄付金の管理を明朗にする為に以下の口座を開設しました。

【口座名義】 青高サッカー部OB会 (会計幹事 林 努)

【支店名】 U F J 銀行 東京営業部 (店番 321)

【口座番号】 普通 / 4773703

* 会費・寄付金の振り込みの際には、卒業年次と電話番号を忘れずに!

8. その他:

ホームページ

東京都立青山高等学校サッカー部OB会

URL: <http://www.aokou-soccer.org>

事務局なんでもメールアドレス: jimukyoku@aokou-soccer.org

メンバー情報のメールアドレス: member_info@aokou-soccer.org

ウェブマスターのメールアドレス: webmaster@aokou-soccer.org

東京都立青山高等学校

URL: <http://www.aokou.org>

東京都立青山高等学校同窓会

URL: <http://www.aoyama-h.metro.tokyo.jp/>

メールリングリスト

どうするかは検討中。

分科会

学年毎、あるいは近い年代での活動を妨げるものではありません。

「こんなことをやっているよ!」っていうのがあれば事務局へお知らせ下さい。

9. あとがき:

今回、青高サッカー部OB会発足にあたって、本当にたくさんの人が尽力して頑張ってくれました。OB会を一から立ち上げることは、数人の限られた力ではとてもとても不可能だということに途中で気づき、サッカー部各代のキャプテンや担当者・マネージャー・顧問の先生方にまで、たくさんの力を貸して頂きました。本当にありがとうございました。この場を借りて感謝の言葉を申し上げたいと思います。

今回、事務局としてOB会の立ち上げに携わったことで、青高生の本質をたくさん感じました。それは、青高生の処理能力の高さ、頼まれたことをしっかりやる誠実さ協調性、優しさと思いやり、コンネクションの多さ、仲間意識の強さなどです。その素晴らしさに、今更ながらびっくりせざるを得ませんでした。また、サッカー部として頑張ってきた成果だと思われる、最後までやり通す、どんなに辛くても頑張る、なんとかする、適時に判断を下す、力業で一気にこなす、先輩を敬い、フォローする、後輩を助け、育てるなど、素晴らしい面もたくさん垣間見ることができました。自分が青高サッカー部に在籍したことを嬉しく感じた瞬間でした。

青高サッカー部として繋がっているということで、嬉しかった事柄も今までの人生でたくさんあります。例えば、現役当時は雲の上の存在だった先輩OBの方々と一緒に合コンをすることになるなんて、夢にも思いませんでした。しかも、現役当時に練習中かなり走らされたので、その代わりといっちはなんです。今度は先輩OBさんにたらふくお酒をイッキして頂きました(全然恨みなどではないデスヨ(笑))。卒業してからは、先輩後輩という堅い付き合いではなく、「仲間」として接してもらえることにとても幸せを感じます。今では朝まで語るくらい仲良くさせてもらっています。また、昨年の夏にサッカー部OB約70人で一緒にサッカーした後、みんなで一緒に飲む機会がありました。その時もかなり盛り上がりすぎてしまい、大先輩方まで巻き込んで、お店の

瓶ビールがなくなってしまったぐらいたくさんのイッキをしてしまいました。今でも憶えているのが、かなり年下の私がイッキコールをしているにもかかわらず、大先輩方はみんながみんな、とても嬉しそうにイッキしてくれていたことです。これも辛い練習でも自分達が上手くなるために頑張ってこなしてきた体育会系気質と、同じ釜の仲間意識からきたものでしょうか。みんなとても楽しく帰っていったのがとても印象的でした。(「イッキの勧め」を提唱している訳ではアリマセン。)

お酒の話ばかり書いてしまいましたが、真面目な話もあります。それは仕事でのことです。以前から一緒にお仕事をさせて頂いている相手が、実は青高の先輩でした。それを知る前からなんか同じ匂いがすると思っていたのですが、お互い青高出身と言うことが発覚してからは、和気藹々で仕事ができ、仕事がやりやすくてしかたがないぐらい、楽しんでいい仕事できています。

このように、「青高サッカー部」ということばの魔力を感じている方はたくさんいるのではないのでしょうか？

青高に入り、サッカー部に在籍して、みなさんそれぞれ色々なことを感じ、考え、素晴らしいものを得て成長されたことは想像に難くないことです。今後もこの素敵な仲間と共に生きていきたい、楽しみたい、サッカーをし続けたいと、みんなが思っていると思います。今日OB会が発足することで、今後も頼もしい後輩たちがどんどん増え、更に質の高いOB会になることを期待しています。OB会として、現役生を陰ながらフォローすることはもちろんですが、今後は学生の就職活動の際にも先に社会に出た先輩として、何かしらお手伝いができるような組織になればいいな、と感じています。みんなで頑張りましょう!!!

青山高校サッカー部 宴会隊長
1991年(平成3年)卒 小深田 徹

ホームページへ掲載した本資料では、
OB会設立総会当日に配布した冊子から
以下のページの情報は割愛しています。

- ・ 写真のページ (理由: データ容量が大きくなるため)
- ・ 会員名簿情報 (理由: 個人情報保護の観点から)

当日配布した印刷製本版の冊子をご希望の方は、
事務局までお問合せ下さい

e-mail: jimukyoku@aokou-soccer.org